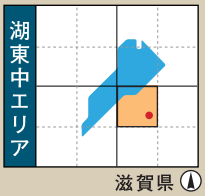
名勝
県指定

阿自岐神社庭園（あじきじんじゃていえん）

豊郷町安食西　昭和35年1月20日指定



阿自岐神社庭園は、神社の神域のほぼ全体が庭園となっています。池泉多島式と呼ばれる庭は、この地域を潤す灌漑用水への信仰に端を発していると考えられます。大変に古い形態の庭であり、庭の変遷を考える上で重要な文化財です。

当時のできごと	
421年	倭王讃宗に朝貢
645年	大化の改新
1184年	一の谷の合戦



阿自岐神社庭園

阿自岐神社について

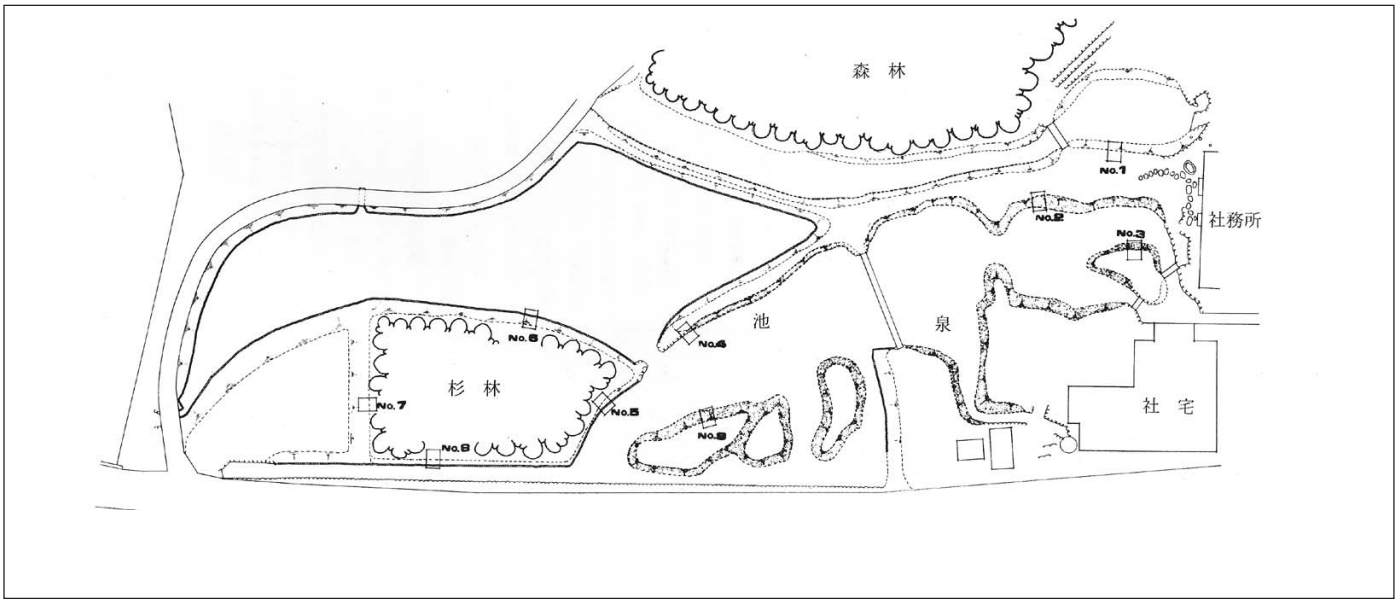
阿自岐神社は式内社の一つで、主祭神は農耕の神「味耜高彦根神（あじすきたかひこねのかみ」と道路を守護する「道主貴神（みちぬしむちのかみ）」です。この神を祀ったアジキ氏は、応神天皇の頃、百済から渡来したと伝えられ、一族の阿知吉師（あちきし）がここに神を祀り、神池を造ったと伝えられています。

祭神や由来を考えると、この庭園は周辺の水田を開発するために造られた灌漑施設であり、水に対する信仰が庭の形を生み出したとも考えられます。

現在も清水が湧き出、流れ出た水は田畑を潤しています。島の一つには「千町田を　養う神の清水かな」と刻まれた石碑が残ります。



池に浮かぶ小島



阿自岐神社庭園略測図

庭園の特徴

この庭園が、いつ頃整備されたかについては、明確にはわかっていません。那須与一の放った矢が刺さった所から水が湧き出たという伝承のある池がありますので、鎌倉時代頃に一度改修を受けた可能性があり、原型はこれより遡る可能性があります。

現在は、社殿のある敷地を中央に東池と西池に分かれていますが、元は社殿も島に建ち、橋で渡るようになっていたと考えられます。湧き出る清水、多数の小島を浮かべる池、趣の異なる橋、そして、周囲の木々が一帯となり、静かなたたずまいを見せるこの庭園は、寺院庭園とは異なり、農耕民族の神への信仰を表すものとして、貴重な文化財となっています。



池に浮かぶ小島と石橋



池に浮かぶ小島と橋

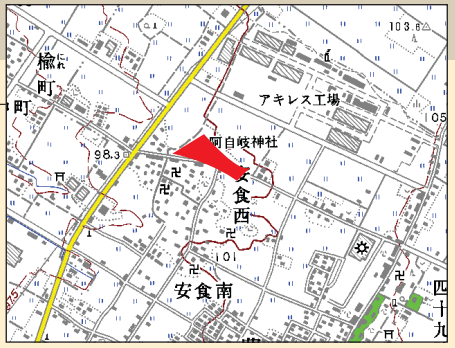
関連する文化財

阿自岐神社本殿（県文）	三間社流造り。地方在住の大工の手による建造で、彫刻を多用する。文政2年(1819)に上棟
池ノ沢庭園跡（朽木村）	安曇川を見下ろす段丘上に残る庭園遺構。発掘調査の結果、類例の少ない鎌倉時代の庭である可能性が高まっている

もっと深く知りたい

豊郷町教育委員会　☎0749-35-8131　犬上郡豊郷町石畑375

阿自岐神社庭園へのアクセス　JR琵琶湖線　能登川駅下車



【参考文献】〔滋賀の美 庭〕京都新聞社　〔滋賀県の庭園1～3〕滋賀県教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月